

# 記事の書き方 (T<sub>E</sub>X 編)

文 編集部 ほげ

## 1 ファイル構成

この雛形に含まれているファイルは次のような意味になっています。

`main.tex` クラスファイルやパッケージのロードを行うファイル。

`body.tex` 記事の本体の T<sub>E</sub>X ファイル。このファイルはリポジトリのルートにある `main.tex` から読み込まれる。

## 2 記事を書く

この `body.tex` を編集すると記事になります。記事を書いたら、`make` コマンドでビルドできます。

```
1 make
```

これで `main.pdf` が生成されれば成功です。あとは `main.tex` を編集すれば記事が出来ます。

## 3 記事の追加

作った記事をリポジトリのルートにある `main.tex` に追加する必要がある。次のような T<sub>E</sub>X プログラムを追加する。

```
1 \setcounter{section}{0}
2 \makeatletter
3 \def\input@path{./articles/<ARTICLE-DIRECTORY-NAME>/}
4 \renewcommand\includegraphics[2][]{%
5   \latexincludegraphics[#1]{./articles/<ARTICLE-DIRECTORY-NAME>/#2}
6 }
7 \renewcommand\bibliography[1]{%
8   \latexbibliography{./articles/<ARTICLE-DIRECTORY-NAME>/#1}
9 }
```

```
10 \makeatother
11
12 \input{articles/<ARTICLE-DIRECTORY-NAME>/main.tex}
```

この時、もし`\usepackage`が増えた場合は次の二つを実行してください。

- リポジトリのルートにある`main.tex`にも`\usepackage`を追加する
- `.travis.yml`の `sudo tlmgr install`に必要があればパッケージを追加する

# 記事の書き方（Markdown 編）

文 編集部 ほげ

## 1 ファイル構成

次のようなファイル構成になっています。

- `main-lua.tex`
  - TeX をコンパイルするための設定があるファイル。原則、このファイルは編集しない。
- `main.tex`
  - Pandoc によって生成される TeX ファイルを読み込むファイル。このファイルではヘッダー文字列と著者名が記述されている。また、このファイルはリポジトリ直下の `main.tex` から読み込まれる。

## 2 記事を書く

見出しレベル 1 (#) で書いたものが記事のタイトルになります。編集者の名前やヘッダなどは、TeX で制御するしかないので、`main.tex` を直接編集してください。そして、この `body.md` を編集すると記事になります。

## 3 コンパイル

次のコマンドを実行するとコンパイルができます。

```
1 make
```

`main.pdf` が生成されれば成功です。

## 4 記事の追加

作った記事をリポジトリのルートにある `main.tex` に追加する必要がある。次のような TeX プログラムを追加する。

---

```
1 \setcounter{section}{0}
2 \makeatletter
3 \def\input@path{{./articles/<ARTICLE-DIRECTORY-NAME>/}}
4 \renewcommand\includegraphics[2][]{%
5   \latexincludegraphics[#1]{./articles/<ARTICLE-DIRECTORY-NAME>/#2}
6 }
7 \renewcommand\bibliography[1]{%
8   \latexbibliography{./articles/<ARTICLE-DIRECTORY-NAME>/#1}
9 }
10 \makeatother
11
12 \input{articles/<ARTICLE-DIRECTORY-NAME>/main.tex}
```